



菊池 功明 議員

農業生産100億円達成アクションプランは新遠野市の大命題だ

【質問】 昭和の合併時、人々は北上山地に息づく田園都市としての理想郷を夢見て努力を惜しまなかった。平成の市長が掲げる農業生産100億円達成アクションプランは、新遠野市の大命題だが、その推進組織として昨年4月に立ち上げたアストのこれまでの活動状況と挑戦の内容は。また、市内他産業の農業参入への取り組みの成果はどうか。

【市長】 生産現場の本音を引き出すために約250戸の農家訪問を現在も継続実施している。情報収集と意見交換を常に行い、関係機関の連携のもと各部門別チームを設置した。何よりも農家が「手取り増」を実感できることを重視し、販売改革等に取り出す。他産業の農業参入については、現段階では「ほうれんそう」と「菌床しいたけ」の2社だが、さらに検討をしている企業が数件ある。

【質問】 中心市街地の空洞化は近年顕著になっているが、地域経済活性化への対策について伺う。

【市長】 昨年10月1日には政策企画室に中心市街地活性化担当を配置し、今まで取り組んできた駅前再開発や中心市街地活性化の成果や課題を整理しており、4月からは産業振興課に中心市街地活性化担当職員を配置する。

【質問】 稲荷下第2地区土地区画整理事業の早期完成を求める請願書をどのように受け止めたか。また今後の対応について伺う。

【市長】 事業着手から約5年が経過し、なかなか事業が進まず関係者に大変迷惑をかけているが、平成18年度においては全体予算が前年度対比2.4%減の緊縮予算の中で、この事業費は対前年度比15%増で実施の予定である。また下一日市地区事業の財源の振替を視野に入れながら、事業の推進を図っていききたい。



整備中の稲荷下第二地区



新田 勝見 議員

今後の学校再編について

【質問】 遠野市における米対策を示せ。

【市長】 A S Tチャレンジ100でも、限定純情米の生産拡大や特別栽培米、天日米等の生産振興に取り組む。栽培面積を現行16%から30%に引き上げたい。

【質問】 畜産振興公社の今後について示せ。

【市長】 18年度上半期から、競走馬預託事業について民間経営に移行できるよう調整中である。馬事振興、放牧部門については19年度に向け改革する。

【質問】 県からの事務権限移譲について、人的負担はないのか。その交付金は見込まれるか。

【市長】 移譲されるのは消防本部94事務、産業振興部20事務、健康福祉部11事務、計125事務となっている。18年度県からの交付金は150万円の見込みである。

【質問】 児童生徒の減少により、市では学校再編について考えているようだが、どのようなスケジュールを組んで行うのか。また地区住民、PTAなどと合意形成についてどう図っていくのか、その方法を示せ。

【教育長】 生徒数の推移、学級編成、部活動、学区の把握など分析し、18年度の早い時期に市民、教育関係者、行政機関等で構成する検討委員会を立ち上げ検討する。20年度には、全校生徒30名前半の中学校が複数出ることから、19年度の秋頃には結論を出していく。また、各地区で学校・PTA・地域との懇談会を開催し、広く意見を聞きながら進める。

【質問】 養護学校分教室の早期実現に対する支援についてどうなっているのか。

【市長】 1,698名の署名を添えて12月9日に県教育長に要請書を提出している。送迎バス等の支援については今後も保護者と懇談を行い、より良い方法を検討していく。